

訪問日：2017.9.1 / エリア：京都

## HAPii+ 京都造形芸術大学 ホスピタルアート・プロジェクト



左より) 堀井さん、徳重さん

### 回答者

堀井 孝さん(京都府立医科大学附属病院 事務部 病院管理課 総務調整担当 副課長)  
徳重 典生さん(京都府立医科大学附属病院 事務部 病院管理課 総務調整担当 副主査)

ホスピタルアートのプロジェクトは、2009年度から始めて、2017年度まで実施してきました。当初はNPO法人アーツプロジェクトに委託していましたが、今は京都造形芸術大学と委託契約を結んでいます。それもあって、低予算で委託、プロジェクト実施が出来ているのかもしれませんが。京都造形芸術大学側は授業の一環、教育的なものとしてプロジェクトを進めてくれています。NPO法人アーツプロジェクトにはアドバイザーの立場として残って残っています。

1年のプロジェクトで病院、大学、施工の責任者全体での集まりは3回程です。そのときにパターンの提案を2つ3つ出してもらい、現場の医師、看護師、技師さんなどにも確認しながら進めています。パターンのデザインは完全に大学側に任せています。全体の集まり以外は大学とやり取りしながら、個別に学生さんに見学に来てもらうなどしてプロジェクトを進めてもらっています。

プロジェクトを進めるに当たっては、安全性が一番大切になります。塗料や絵が落ちてくるようなもの、ほこりが溜まるもの、清掃ができないもの、手すりや通路を塞いでしまうもの、匂いのある塗料などは使えません。仕様や素材、位置決めを大学と話しながら、進めています。お互いプロジェクトをして慣れてきているので、そんなに議論に時間が掛かるということはありません。

ホスピタルアートは、病気の方、辛い闘病生活を送っている患者さんにとって気分転換になる、心身の回復をしてもらう目的で実施しています。報告書を作った年には、患者さんのアンケートを取り、実施している先生やスタッフの意見を集め、報告書にまとめました。初年度に描いてもらった部分などが、改修で一部なくなっていることもあり、それが残念です。

アートプロジェクトの作業は基本的に休日、夜間に実施してもらっています。患者さんのいる場所で制作してもらうのは難しいのです。こどもの病棟などスタッフの入室さえ厳しいところもあるので、不特定多数の人が出入りすることはできません。

待合室や廊下は、夕方や夜間にかけて患者さんやお見舞いの方がいらっしゃらなくなります。そこで制作をしてもらっています。

はじめはこどもの病棟、特に、手術室にまで向かう廊下の天井が低く、地下で薄暗い感じがしているということで、そこを明るくしてもらうために絵を描いてもらいました。そのあとNICU(新生児集中治療室)と続き、こども関連の病棟で制作してもらえる所は減ってきたので、内視鏡の待合室、放射線部の撮影室・待合室と順番に進めています。

京都造形芸術大学の生徒たちが、京都府立医科大学附属病院で行なっているプロジェクト。院内通路の壁面に絵画を描く、治療に向かう子どもたちの不安を取り除くためのおもちゃの製作などを2009年度から行っている。

〒 602-8566  
京都市上京区河原町通広小路上る  
梶井町 465  
(京都府立医科大学附属病院)